

喉頭癌

喉頭癌に対する治療方針を表1に示す。声門癌と声門上癌に分けて治療方針を決めている。T分類別では、概ね早期Tでは放射線治療(RT)、進行Tでは喉頭全摘を施行している。声門癌T3と声門上癌T2がほぼ同様な方針としている。頸部はN+では患側頸部郭清としているが、声門上癌では対側も選択的頸部郭清を施行している。基本的に治療前に全身麻酔下に喉頭直達鏡検査を施行し、腫瘍の広がりや組織検査を実施している。

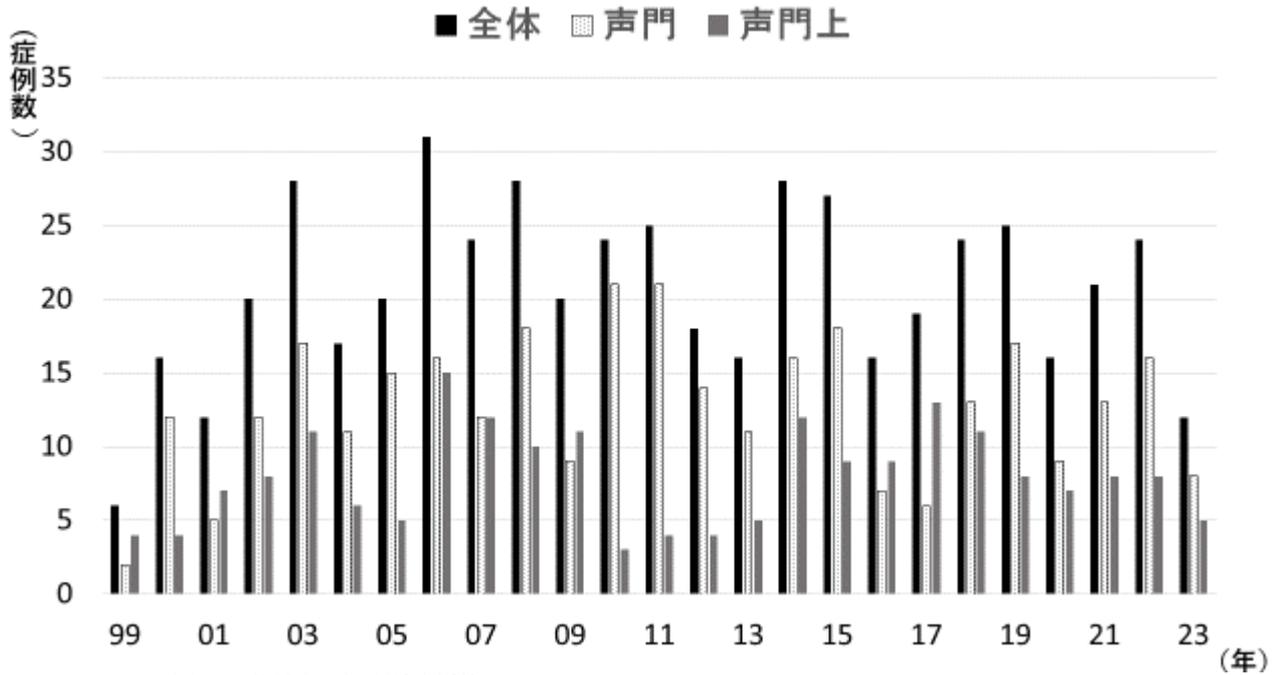


図1：喉頭癌の年度別症例数

1999年9月～2023年8月までの手術症例数。年間15から30症例の治療を施行した。
 声門癌：声門上癌は1.6：1であった。

・声門癌

- T1 放射線単独
- T2 CRT (S-1併用)
- T3 ① CRT (CDDP併用)
②喉頭全摘出術
- T4 喉頭全摘出術
- N0 頸部郭清なし
- N+ 患側TND

・声門上癌

- T1 ①経口的切除
②CRT (S-1併用)
- T2 ①CRT (CDDP併用)
②喉頭全摘出術
- T3-4 喉頭全摘出術
②喉頭全摘出術
- N0 T1-2 頸部郭清なし
T3-4 患側SND
- N+ 患側TND、健側SND

◆T4例、断端陽性、2個以上のリンパ節転移、節外浸潤例には術後CRTを施行

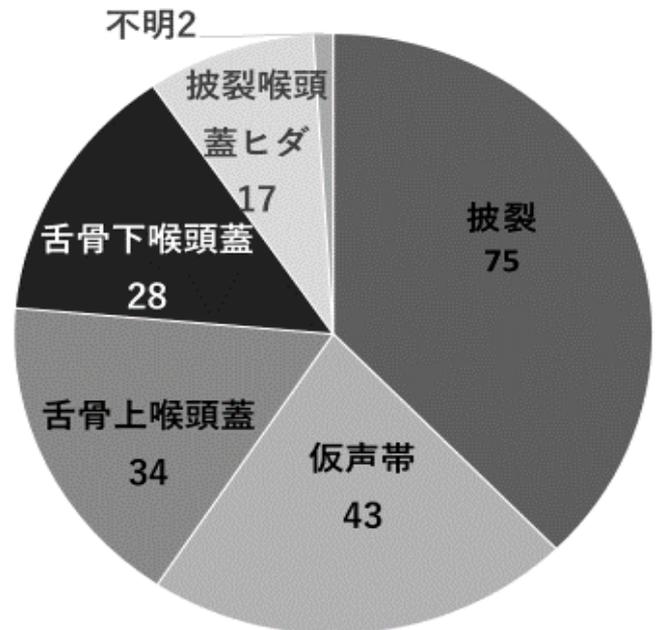


図2：声門上癌の亜部位別症例数

亜部位では、披裂が最も多く、次いで仮声帯、舌骨上喉頭蓋の順であった。

表1：喉頭癌の治療方針

声門癌

T \ N	N0	N1	N2a	N2b	N2c	N3	計
T1	159	1	0	0	0	0	160
T2	100	1	0	0	2	0	103
T3	24	1	0	0	0	0	25
T4	22	1	0	4	4	1	32
計	305	4	0	4	6	1	320

表 2：声門癌の TN 分類別症例数

声門癌 320 例中、T1 が 160 例、T2 が 103 例、T3 が 25 例、T4 が 32 例であった。N+ は 15 例 (5%) に過ぎなかった。

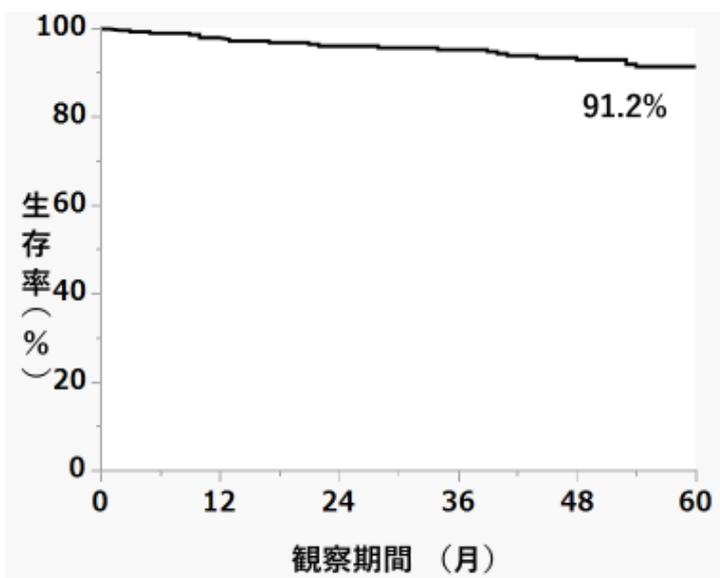


図 3：声門癌の疾患特異的生存率—全症例 (320 例)

全症例の疾患特異的 5 年生存率は 91.2% であった。

声門上癌

T \ N	N0	N1	N2b	N2c	N3	N3b	計
Tis	2	0	0	0	0	0	2
T1	21	1	0	1	1	0	24
T2	29	9	12	2	2	1	55
T3	25	6	14	9	2	1	57
T4	14	9	17	18	3	0	61
計	91	25	43	30	8	2	199

表 3：声門上癌の TN 分類別症例数

声門上癌 199 例中、Tis が 2 例、T1 が 24 例、T2 が 55 例、T3 が 57 例、T4 が 61 例であった。N+ は 107 例 (53.7%) であった。

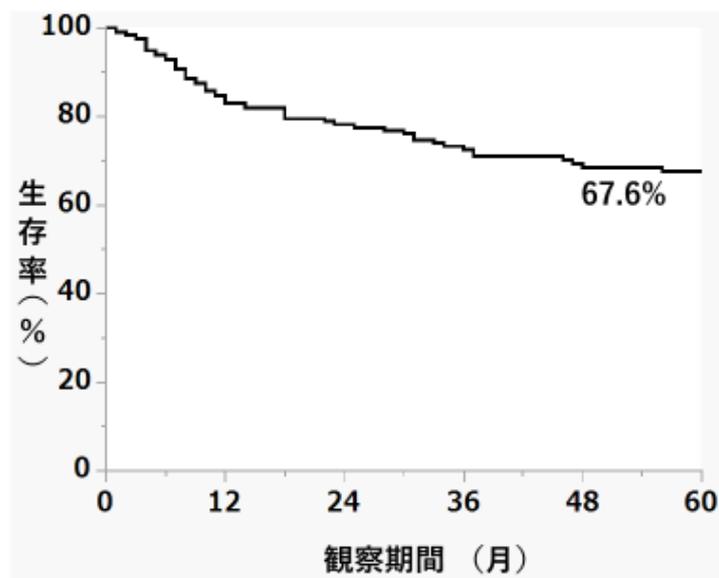


図 4：声門上癌の疾患特異的生存率—全症例 (199 例)

全症例の疾患特異的 5 年生存率は 67.6% であった。

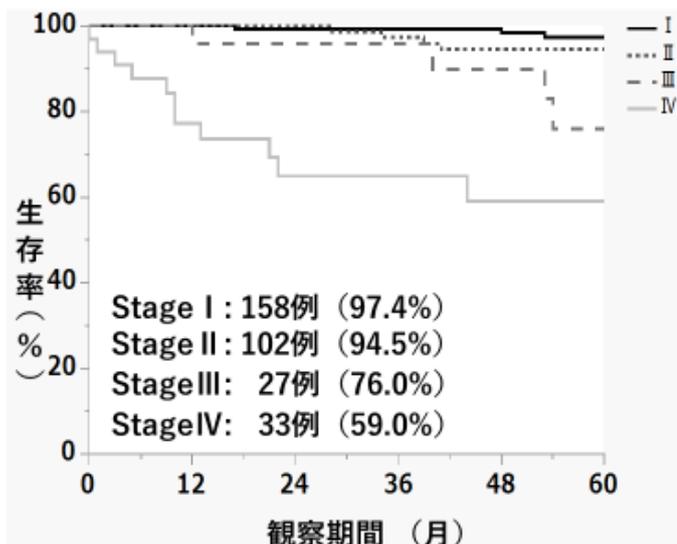


図 5：声門癌の疾患特異的生存率—ステージ分類別（320例）
 ステージ別の疾患特異的5年生存率はステージIからIVでそれぞれ97.4%、94.5%、76.0%、59.0%であった。

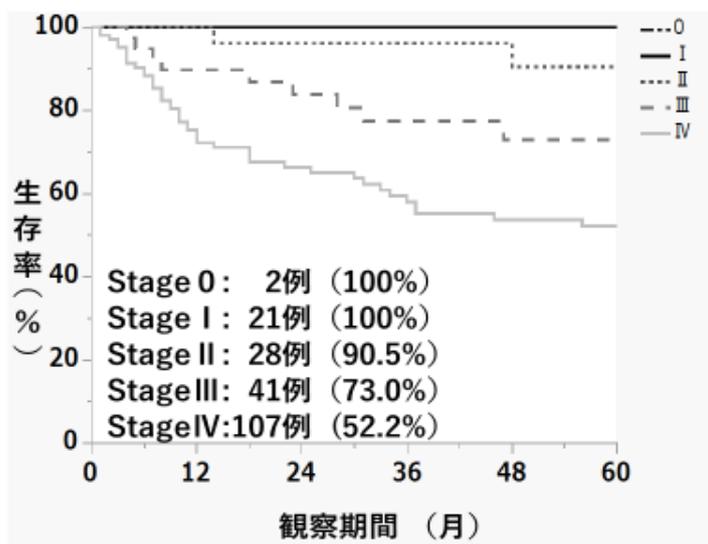


図 6：声門上癌の疾患特異的生存率—ステージ分類別（199例）
 ステージ別の疾患特異的5年生存率はステージ0からIVでそれぞれ100%、100%、90.5%、73.0%、52.2%であった。

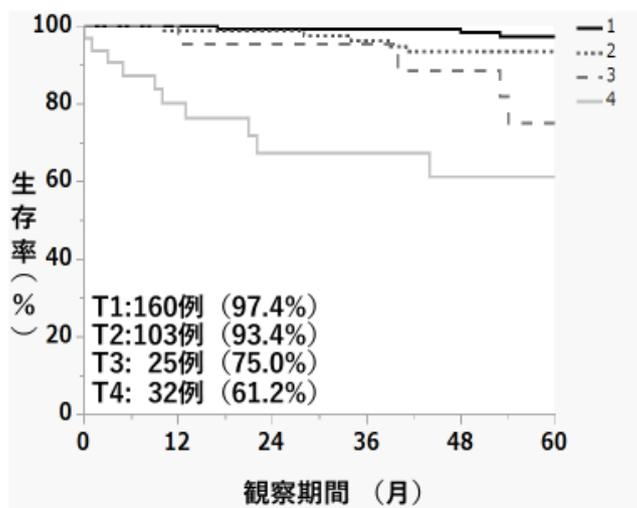


図 7：声門癌の疾患特異的生存率—T分類別（320例）
 T分類別の疾患特異的5年生存率はT1からT4でそれぞれ97.4%、93.4%、75.0%、61.2%であった。

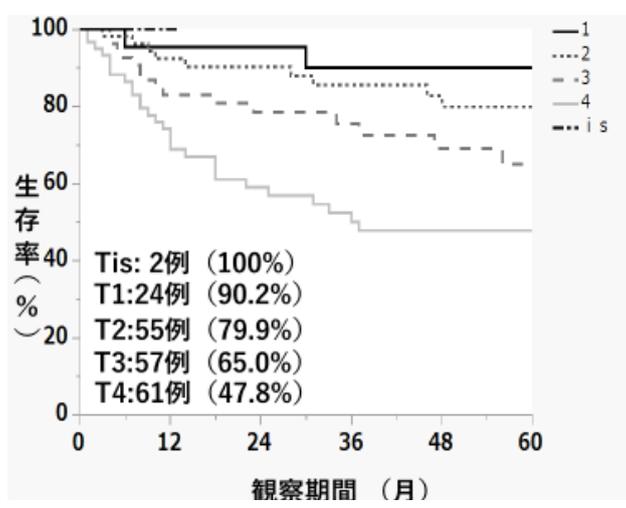


図 8：声門上癌の疾患特異的生存率—T分類別（199例）
 T分類別の疾患特異的5年生存率はTisからT4でそれぞれ100%、90.2%、79.9%、65.0%、47.8%であった。

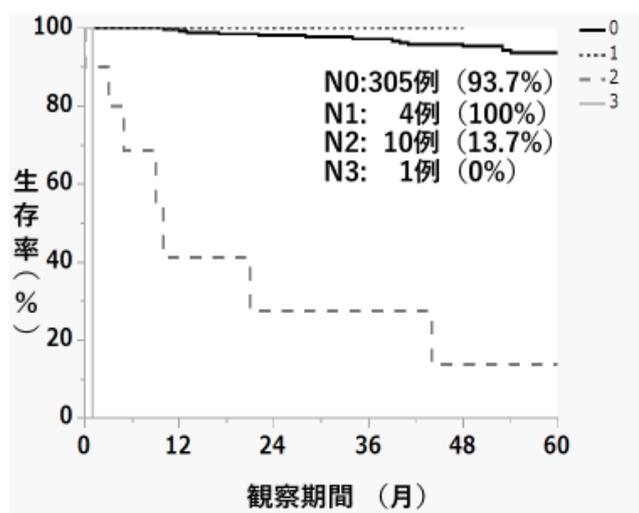


図 9：声門癌の疾患特異的生存率—N分類別（320例）
 N分類別の疾患特異的5年生存率はN0からN3でそれぞれ93.7%、100%、13.7%、0%であり、N2、N3症例の予後は著しく不良であった。

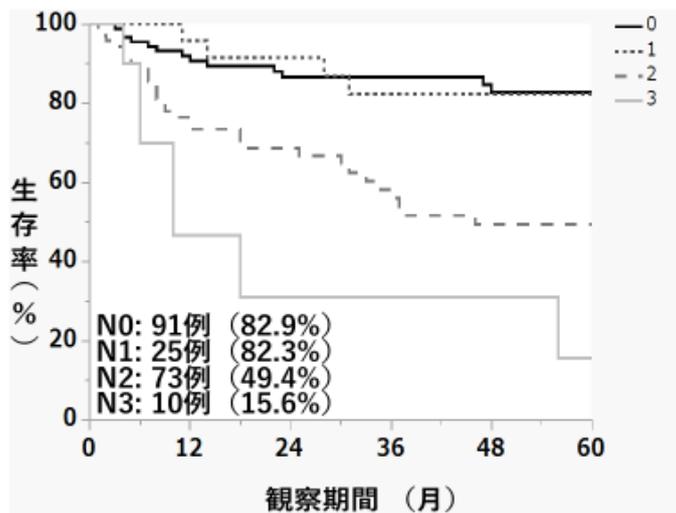


図 10：声門上癌の疾患特異的生存率—N分類別（199例）
 N分類別の疾患特異的5年生存率はN0からN3でそれぞれ82.9%、82.3%、49.4%、15.6%であった。